

AIを活用したオープンイノベーション

キューピーの生産本部で未来技術・次世代技術を担当しています。萩野武と申します。本日はお話しさせていただきます。当社におけるAI(人工知能)活用、オープンイノベーションの取り組みについて、初めに当社についてお話しします。設立は1919年ですが、1990年代後半から、今年創業100周年を迎えます。売上高はグループ全体で約700億円です。経営理念は「事業価値」。これは同じ志を持って一致団結し、業を成し、苦難を分かち合いながら、最後に成功して喜びをともにするという意味です。また、当社は食の安全・安心ブランド調査において、業界180社の中で一番を頂いています。

AIの活用は当社だけでなく、日本社会全体のテーマです。ただ調査会社の調べによると、現状AIをきちんと活用している会社は全体の4・4%にとどまっています。企業のAI活用が進まないのはなぜでしょうか。

キューピー生産本部生産技術部 未来技術推進担当 担当部長 萩野 武氏

よくお聞きするのは「AIに何ができるのか分からない」「AI導入によるROI(投資利益率)を計算できない」ということです。では、当社はAIをどう捉えているのでしょうか。人は知力と体力などから構成されます。体力を機械化するのロボット、知力を機械化するのAIだと考えます。AI導入の目的は知的作業を頂いたとお話しし

安全・安心を特に重視して、AIを活用しています。AIを使い分ける他にもあります。AIを活用する上で決めるべきは心です。特に、利他的な目的を持つ心。これは「志」と呼ぶと思いますが、AIを使う上で重要なのは志だと考えます。志があると、AIをどう使うか、何を機械化するのかが決まってくる。安全・安心でナンバーワンを求めたいとお話しし

AI活用には「志」を持つこと。良い原料を担保するために、検査装置が必要ですが、検査装置が高くて、人が並んで再検査する状況です。また、昨今の人手不足もあり、検査人も集まりません。それなら、当社が装置を開発しようという中で、2年



たが、分析では「その理由が強い現場にある」とされています。当社は志として、この現場にAIを掛け合わせ、オープンイノベーションを起すことと決まっています。具体的な一例を挙げます。生産本部を進めています。弊社の創始者の中島一朗も「良い商品は常に大変な作業です。人目では検査して、非

い前から原料検査装置の開発を始めました。装置開発にあたっては、指したの3点です。ひとつは世界一の高性能を実現すること、二つめは既存装置の10分の1以下の価格とすること、三つめは誰でも使える、使いやすい装置とすることです。これら3点をクリアするためにAIの活用を検討しました。検査性能が不足する装置を、AIに置き換えることで、検査性能を向上させることができました。

習の知識がありません。最新の食品企業にとって、AIプラットフォームを提供する企業は倒産する危険もあります。また、残念ながら虫の混入を検知する良い技術はまだありません。当社では、実現できるところから現場に研究を掛け合わせる形で、AI企業や国立研究所、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、モノづくり中小企業のお借りして装置を完成させたいと思っています。

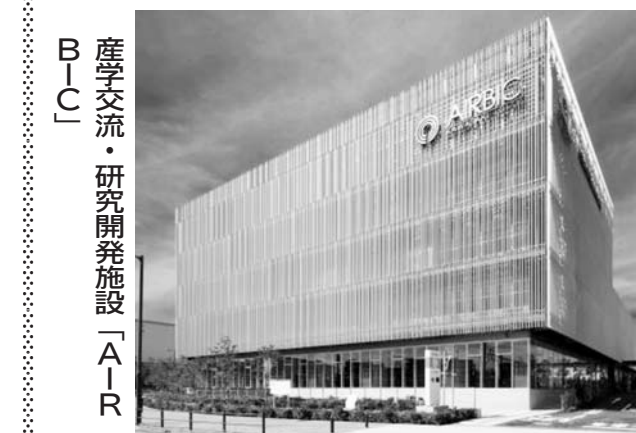
基調講演

キューピーにおけるAIを活用したオープンイノベーション

川崎市が整備してきた産学交流・研究開発施設「AIRBIC(エアビック)」が1月、同市幸区の「新川崎・創造のもり地区」でオープンした。これを受けてかわさき新産業創造センター(KBIC)は、産学官連携の機運

公財法人川崎市産業振興財団、専務理事 土方 慎也氏。この施設は、ベンチャー企業向け「インキュベーション・オフィス」の機能も兼ね備え、研究開発施設「AIRBIC」がオープンした。AIRBICは、1通、日本電産など多数の企業が発信されている。2階がベンチャーの集積地として、新川崎地区の就業人口は約1万人、国内でも有数の創業・大学などの取り組みを形成し、12年度に、新川崎地区の企業や大学で構成されています。

川崎市が整備してきた産学交流・研究開発施設「AIRBIC(エアビック)」(同市幸区)。産学官連携による新技術・新産業の創出を目指す研究開発拠点「新川崎・創造のもり」(同区)の集大成である同拠点を2019年1月、ベンチャー企業などに向けた研究開発用「インキュベーション」を立ち上げた。新川崎・創造のもり地区では、慶応義塾大学の先導的研究施設「新川崎AIRBIC」が立地。この地域にAIRBICがオープンする。この地域にAIRBICがオープンした。AIRBICがオープンした。AIRBICがオープンした。



AIRBIC、交流機能を充実

川崎における次代の産業の核として期待されるライフサイエンス分野の新たな産業創造を目指して、大学、研究機関、企業等とともに、産学官が一つ屋根の下に集うオープンイノベーションの場として、工学と医学の融合による難治性疾患の診断・治療等、体内病院®の実現に向け研究開発を推進しています。

をさらに高めようと、2月20日にAIRBICで「KBICセミナー」を開催。キューピーが進める人工知能(AI)活用の取り組み、食品関連分野における最新の研究内容などに関する講演を実施した。



川崎市産業振興財団 専務理事 土方 慎也氏

「新川崎・創造のもり」の集大成。川崎における次代の産業の核として期待されるライフサイエンス分野の新たな産業創造を目指して、大学、研究機関、企業等とともに、産学官が一つ屋根の下に集うオープンイノベーションの場として、工学と医学の融合による難治性疾患の診断・治療等、体内病院®の実現に向け研究開発を推進しています。

KAWASAKI IIP 公益財団法人 川崎市産業振興財団
INSTITUTE OF INDUSTRIAL PROMOTION
チャレンジする企業を応援します。
URL <https://www.kawasaki-net.ne.jp/>
創業、新製品開発、新分野進出の促進
■かわさき起業家オーディション
■大学・企業パートナー探しの窓口～産学・産産マッチング
■経営革新のお手伝い
「ワンディコンサルティング」「専門家派遣」など適切な診断や助言
■海外支援ワンストップサービス「川崎市海外ビジネス支援センター(KOBS)」
〒212-0013 川崎市幸区堀川町66番地20
TEL.044-548-4111 FAX.044-548-4110 E-Mail info@kawasaki-net.ne.jp

KBIC Kawasaki Business Incubation Center
新川崎・創造のもり かわさき新産業創造センター
ものづくり技術のさらなる高度化をめざす企業の研究開発拠点
◆インキュベーション 創業、新事業・新分野への進出支援
■経験豊かなインキュベーションマネージャーが支援します。
●相談、あっせん(事業計画、経営法務、会計、資金調達など)
●ビジネス・マッチング(個別、商談会、展示会)
●企業交流(館内、域内)
●金融機関、ベンチャーキャピタルなどの仲立ち
◆基盤技術の振興・高度化 基盤技術の継承、人材育成の支援
■基盤技術に精通した技術コーディネーターが支援します。
〒212-0032 川崎市幸区新川崎7-7 新川崎創造のもり地区
TEL.044-587-1591 FAX.044-587-1592 E-Mail kbic@kawasaki-net.ne.jp

ICONM 公益財団法人 川崎市産業振興財団
ナノ医療イノベーションセンター
世界中の人が自律的に健康になれるスマートライフケア社会を実現するために
◆京浜健康コンビナートの中核として、
◆市民の誇りとなり、
◆夢を叶える医療技術を次々と発信する
◆世界で最もイノベーティブな拠点を 目指します
川崎における次代の産業の核として期待されるライフサイエンス分野の新たな産業創造を目指して、大学、研究機関、企業等とともに、産学官が一つ屋根の下に集うオープンイノベーションの場として、工学と医学の融合による難治性疾患の診断・治療等、体内病院®の実現に向け研究開発を推進しています。
(ナノ医療イノベーションセンター) 〒210-0821 川崎市川崎区殿町3丁目25番14号
TEL.044-589-5700 FAX.044-589-5706 <http://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>